

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

JPA 61-105963

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 61105963 A

(43) Date of publication of application: 24 . 05 . 86

(51) Int. Cl.

H04N 1/21
G06F 3/12
G06K 9/20
H04N 1/00

(21) Application number: 59228513

(22) Date of filing: 30 . 10 . 84

(71) Applicant: TOSHIBA CORP

(72) Inventor: ISHIGAKI TOSHINORI
KATSUMATA HIROTO

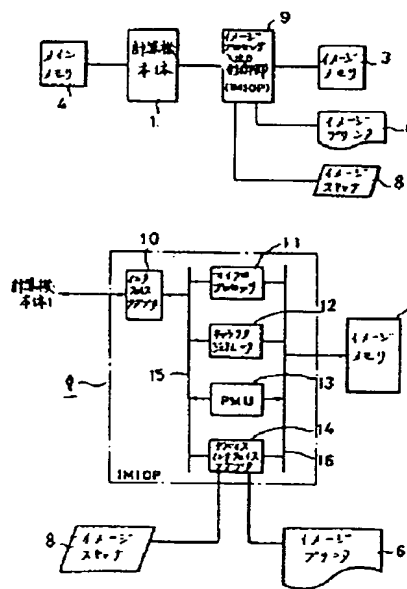
(54) IMAGE INPUT/OUTPUT CONTROLLING DEVICE

(57) Abstract:

PURPOSE: To simplify the system in a system provided with an image inputting mechanism such as an image scanner, etc. and an image outputting mechanism such as a page printer etc., by utilizing hardware effectively.

CONSTITUTION: Conventional image processor, image printer controlling section, image scanner controlling section etc. are made into common hardware and replaced by an image processor input/output controlling section 9. Thus, devices are unified into one controlling section 9, and only one page memory is used to simplify the constitution and reduce the cost. As input/output image data are stored in a page memory of the controlling section and can be processed on an image memory. Accordingly, its processing speed can be enhanced.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio



This Page Blank (uspto)

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-105963

⑪ Int. Cl.

H 04 N 1/21
G 06 F 3/12
G 06 K 9/20
H 04 N 1/00

識別記号

庁内整理番号

7136-5C
7208-5B
8419-5B
C-7334-5C

⑬ 公開 昭和61年(1986)5月24日

審査請求 有 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 イメージ入出力制御装置

⑮ 特 願 昭59-228513

⑯ 出 願 昭59(1984)10月30日

⑰ 発 明 者 石 垣 俊 典 青梅市末広町2丁目9番地 株式会社東芝青梅工場内
⑰ 発 明 者 勝 又 宏 人 青梅市末広町2丁目9番地 株式会社東芝青梅工場内
⑱ 出 願 人 株 式 会 社 東 芝 川崎市幸区堀川町72番地
⑲ 代 理 人 弁 理 士 鈴 江 武 彦 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

イメージ入出力制御装置

2. 特許請求の範囲

イメージスキャナ、イメージプリンタ、及びイメージメモリの接続機構を有し、前記イメージスキャナの入力データを前記イメージメモリに書き込む手段と、前記イメージメモリに記憶されたデータを前記イメージプリンタに送出する手段と、外部装置との間でイメージデータを送受する手段と、前記各手段に共通の制御用プロセッサとを具備してなることを特徴としたイメージ入出力制御装置。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の技術分野〕

本発明はイメージ入力端末及びイメージ出力端末をもつシステムに用いられるイメージ入出力制御装置に関する。

〔発明の技術的背景とその問題点〕

従来のこの種イメージ入力端末及びイメージ

出力端末を有するシステムの構成例を第3図に示す。このシステム動作は、電子計算機本体1よりイメージスキャナ制御部7に命令を出し、イメージスキャナ8より、オペレータがセットした用紙の絵(イメージ)を入力し、イメージスキャナ制御部7を介して計算機本体1のメインメモリ4にイメージデータをストアし、図示しない磁気ディスクにメインメモリ4のイメージデータを記憶しておく。そして、これらのイメージデータのイメージ処理が必要な場合は、再度メインメモリ4に読み出し、計算機本体1よりイメージプロセッサ2に命令とイメージデータを送出する。これによりイメージプロセッサ2はイメージデータをイメージメモリ3にストアし、該メモリ3上にてイメージ処理(例えばイメージデータの回転、切り出し、部分移動、イメージデータの上に文庫を追加しイメージメモリ3にオフ・ライトする等)する。計算機本体1はイメージメモリ3より処理後のイメージデータをイメージプロセッサ2を通して受け取

り、一時、メインメモリ4に記憶し、磁気ディスクにストアする。又はそのまゝ、メインメモリ4より計算機本体1がイメージプリンタ制御部5に命令を出し、メインメモリ4よりイメージデータをイメージプリンタ制御部5を通して、イメージプリンタ6に出力する。更に上記システムに於いては、計算機本体1からの命令で、イメージデータの出力だけでなく、コード(文字)データをメインメモリ4からイメージプリンタ制御部5に出力し、イメージプリンタ制御部5がキャラクタフォントイメージを展開し、イメージとしてイメージプリンタ6に印字することもできる。また、イメージスキャナ制御部7はイメージスキャナ8からの用紙一画面分のイメージの、あらかじめ指定された範囲のみを切り出して計算機本体1にデータ転送することもできる。

しかしながら上記したような従来のシステム構成に於いては以下のような種々の欠点があった。即ち、システム内でのイメージデータの移

動が多く(例えば、イメージデータがイメージスキャナ8からイメージスキャナ制御部7を介してメインメモリ4へ、又、メインメモリ4からイメージプロセッサ2を介してイメージメモリ3へ、又、イメージメモリ3からイメージプロセッサ2を介してメインメモリ4へ、更にはメインメモリ4からイメージプリンタ制御部5を介してイメージプリンタ6へ等)、この時イメージデータが計算機本体1～メインメモリ4の間、及び計算機本体1～イメージプロセッサ2の間、更にはイメージスキャナ制御部7～計算機本体1の間を移動するので、計算機本体1のメインメモリ4からのプログラムの読み出しに時間がかかり、計算機本体1の処理スピードが落ちる。即ちシステム全体の処理速度が遅いという欠点があった。更には計算機本体1からイメージプロセッサ2、イメージプリンタ制御部5、イメージスキャナ制御部7等に対する命令の送出数が多く、従って計算機本体1のイメージプロセッサ2、イメージプリンタ制御部5、

及びイメージスキャナ制御部7等に対する制御の為の処理時間が増え、計算機本体1の性能低下を招いていた。

また、ハードウェア上に於いてはイメージプロセッサ2、イメージプリンタ制御部5、イメージスキャナ制御部7等が別個に必要であり、コストが高くなっていた。

また、イメージメモリ3はイメージプロセッサ2が処理するためだけに利用されるにすぎず、イメージプリンタ制御部5、イメージスキャナ制御部7とは無関係であり、イメージプリンタ制御部5、イメージスキャナ制御部7がイメージメモリ3を利用することはなかった。このため、イメージプリンタ6へのイメージ出力時(ページプリント方式)、計算機本体1からのデータ転送が間にあわぬ時は、イメージプリンタ制御部5に頁メモリ9aが付加され、又、イメージデータの入力を円滑化するにはイメージスキャナ制御部7にも頁メモリ9bが付加されるが、これらの頁メモリ9a、9b、及びイメ

ージメモリ3は解像度ミリ16本、A3サイズで約4Mバイト必要であり、非常に高価であった。

このように従来のシステム構成に於いては、構成の繁雑、処理の繁雑、経済性、性能等種々の面で問題があった。

〔発明の目的〕

本発明は上記実情に鑑みなされたもので、イメージスキャナ等のイメージ入力機構、及びページプリンタ等のイメージ出力機構を備えたシステムに於いて、ハードウェアの有効利用を計り、経済的に有利で、かつシステム性能を向上できるイメージ入出力制御装置を提供することを目的とする。

〔発明の概要〕

本発明は第1図に示す如く、従来のイメージプロセッサ、イメージプリンタ制御部、イメージスキャナ制御部等を共通ハードウェア化してイメージプロセッサ入出力制御部9に置きかえることにより、システム構成の簡素化と低価格

化を実現し、また、イメージスキャナ8からのイメージデータを直接上記入出力制御部9を介してイメージメモリ3に入れて、該メモリ3上にてイメージ処理を可能とし、更に必要に応じ、イメージメモリ3より入出力制御部9を通してイメージプリンタ6に出力して、計算機本体の処理を簡素化し、処理性能を向上させたものである。

〔発明の実施例〕

第1図は本発明の一実施例を示すシステムブロック図である。図中、1、3、4、6、8はそれぞれ上述した第3図の構成要素と同様のものであり、1は計算機本体、3はイメージメモリ、4はメインメモリ、6はイメージプリンタ、8はイメージスキャナである。

9は上述した第3図のイメージプロセッサ2、イメージプリンタ制御部5、及びイメージスキャナ制御部7の各機能をもつイメージプロセッサ入出力制御部であり、以後IMIOPと称す。

第2図は上記IMIOP9の詳細なブロック図で

近年、イメージ処理によるイメージデータが、電子計算機システムの内部で転送されることが多くなり、イメージ処理機能もイメージ機器（スキャナ、プリンタ等）の制御部で持つようになってきた。また、イメージ処理機能（例えば、円のジェネレーション、直線、斜線の発生、日本語処理機能としてのコードから対応する文字フォントのキャラクタイメージへの展開、イメージデータの回転、イメージデータの一部移動、イメージデータの反転等）の中で、各イメージ機器の制御部が持つ機能が共通なものも多い。そこで、本発明に於いては、これら共通な機能を一個のハードウェアにまとめ、一個のハードウェア（ここではIMIOP9）にすることにより、より性能の良いシステムを構築したものである。

第1図に於いては、計算機本体1がメインメモリ4のプログラム命令を処理し、イメージスキャナ8へのイメージ読み込み命令により、IMIOP9はイメージスキャナ8からのイメージ

ある。第2図に於いて、10は上位装置との間でイメージデータを送受するインタフェースアダプタ、11はIMIOP9の中核をなすマイクロプロセッサ、12はキャラクタジェネレータ、13は拡大・縮小・符号化・複合化回路（以下PMUと称す）、14はイメージ出力機構となるイメージプリンタ6、及びイメージ入力機構となるイメージスキャナ8がつながるデバイスインタフェースアダプタ、15は内部バス、16はイメージデータバスである。

ここで、第1図及び第2図を参照して本発明の一実施例に於ける動作を説明する。前述した第3図に示す構成では、イメージメモリ3、イメージプリンタ6、イメージスキャナ8がそれぞれ計算機本体1の制御の下に独立した制御部（2、5、7）により制御されるのに対して、ここではイメージメモリ3、イメージプリンタ6、及びイメージスキャナ8がそれぞれ共通の制御部、即ちIMIOP9の制御の下にイメージデータの入出力処理を行なうものである。

データを一旦、イメージメモリ3にストアする。その後、IMIOP9は、計算機本体1からの命令を受け、イメージメモリ3の処理（従来、第3図に於いてイメージプロセッサ2が行なった処理）を行ない、必要に応じて計算機本体1から、イメージメモリ3の内容をイメージプリンタ6に出力する命令を受け取り、イメージプリンタ6に印字出力する。この場合、IMIOP9は、イメージプリンタ6の制御部（従来のイメージプリンタ制御部5）の機能を果している。この際、イメージデータの動きは、イメージスキャナ8からIMIOP9を介しイメージメモリ3へ移動し、イメージメモリ3からIMIOP9を介しイメージプリンタ6へ移動しただけで、計算機本体1のメインメモリ4のアクセスは一切なかったことになる。また、磁気ディスク等の外部記憶へのストア、又は読み出しもなかったことになり、性能がアップすることになる。

次に第2図を参照して本発明に係る制御部、即ちIMIOP9の動作を説明する。計算機本体1

より命令がIMIOP9に出される。IMIOP9は何れの機器(8, 6, 9)の命令か指定されているのでそれにより認識する。今、命令がイメージプロセッシング用命令であれば、IMIOP9は、計算機本体1よりインタフェースアダプタ10を通してイメージデータを受け取り、そのデータが符号化(MR, MH等)されていれば、PMU13を通してデコードし、生イメージとして、その後、拡大又は縮小指定されていれば拡大、縮小を行ない、イメージメモリ3からの指定された頁メモリアドレスにストアする。次の命令が円の発生、直線、斜線の発生、あるエリアのハッチング等の処理をIMIOP9が行なう(以上は従来のイメージプロセッサ2とイメージメモリ3で可能であった)。次に、計算機本体1より命令を出し、イメージスキャナ8よりイメージデータを入力し、イメージメモリ3にビットオアで重ねて書き、画面(イメージ)の合成をする。イメージメモリ3上にて合成した画面を次の命令でイメージプリンタ6に出力す

号化、データ圧縮(例えばMR, MHコード)して、計算機本体1に転送可能であり、画面全体でなく指定された部分の切り出しデータを計算機本体1に転送することもできる。

上記動作は第2図の各ブロック(10~14)で機能分担している。すなわち、マイクロプロセッサ11は、計算機本体1からの命令の解釈、計算機本体1へのステータス報告等の処理を行なうとともに、コードデータからの文字フォントイメージを展開するため、キャラクタジェネレータ12のキャラクタ実アドレスを計算し、キャラクタジェネレータ12に転送する等の処理、更に、その時のイメージメモリ3の何れに書くかのイメージメモリ3の実アドレスをキャラクタジェネレータ12に転送する。この時、文字が、拡大か、90°回転か等のパラメータ情報もキャラクタジェネレータ12に転送する。

以上の処理動作をマイクロプロセッサ11が1文字毎に行なう。また、マイクロプロセッサ11は、イメージがMR, MH等符号化データ

ることも可能であり、計算機本体1のメインメモリ4、又は磁気ディスク、又はその双方にストアしても良い。また、今とは逆に、イメージスキャナ8よりイメージを入力し、イメージメモリ3にストアした後、計算機本体1からの命令で、IMIOP9が円の発生、直線、斜線の発生等をイメージメモリ3上に展開し合成して、その後、イメージプリンタ6に出力も可能である。また、計算機本体1の命令により円の発生をIMIOP9に行なわせ、イメージメモリ3上に展開して、イメージ処理した後、計算機本体1からのプリントデータをIMIOP9を通して、イメージデータに展開し、イメージメモリ3に上記ビットオアでストアし、画面の合成をした後、IMIOP9を通してイメージプリンタ6に出力することも可能である。また、イメージスキャナ8のイメージデータ、計算機本体1からの命令による円、直線発生、ハッチング等をイメージメモリ3上に展開した後、計算機本体1からの命令でイメージメモリ3のイメージデータを符

の場合、符号化コードを生イメージに変換すること、またその時、拡大、縮小をするか否かの指定をPMU13に対して行ない、計算機本体1からのイメージデータをPMU13を通してイメージメモリ3に書く。当然、イメージメモリ3の何れの部分に書くかのアドレス指定、幅指定はマイクロプロセッサ11がPMU13にセットすることになる。円、直線・斜線、反転、部分移動等は、マイクロプロセッサ11がイメージメモリ3に対して行なうことになる。マイクロプロセッサ11はデバイスインタフェースアダプタ14に対し指示することにより、イメージプリンタ6の起動、イメージスキャナ8の起動、出力データ(プリンタの場合)のイメージメモリ3のスタートアドレス、入力データ(スキャナの場合)のイメージメモリ3へのスタートアドレス、バイトデータ転送数の指定等を行ない、イメージプリンタ6、イメージスキャナ8へのイメージデータの出力、入力を可能にしている。

従来、別々のイメージプリンタ用、イメージスキャナ用にそれぞれ独立した制御部を持ち、イメージプロセッサは前記制御部とは別のハードウェアを持っていた。また、イメージデータの一部バッファリング用にそれぞれ頁メモリを持っていた。

これに対して上述した本発明の一実施例に於いては、一つの制御部にまとめ、また、頁メモリも一つにし、構成の簡素化とコストダウンを実現している。また入力、出力イメージデータが制御部の頁メモリにストアしているため、入力イメージデータが計算機本体に転送され、そこからイメージプロセッサ用イメージメモリに転送され、再度、計算機本体へ、更に、そこからイメージプリンタ用頁メモリに転送していた従来の構成に対して、1つのイメージメモリ上で処理が可能となり、処理スピードが上がる。
〔発明の効果〕

以上詳記したように本発明のイメージ入出力制御装置によれば、ハードウェアの有効利用を

計り、経済的に有利な構成で、かつシステム性能を向上できる。

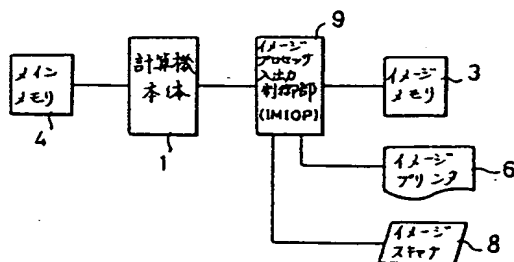
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示すシステムブロック図、第2図は上記実施例の要部の構成を示すブロック図、第3図は従来のシステム構成を示すブロック図である。

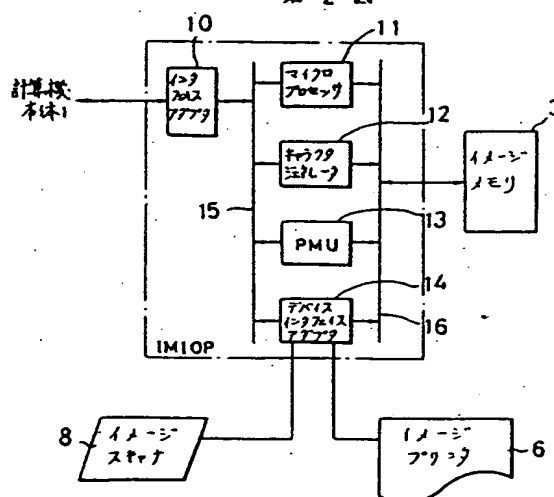
1…計算機本体、3…イメージメモリ、4…メインメモリ、6…イメージプリンタ、8…イメージスキャナ、9…イメージプロセッサ入出力制御部(IMIOP)、10…インタフェースアダプタ、11…マイクロプロセッサ、12…キャラクタージェネレータ、13…拡大・縮小・符号化・複合化回路(PMU)、14…デバイスインタフェースアダプタ、15…内部バス、16…イメージデータバス。

出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦

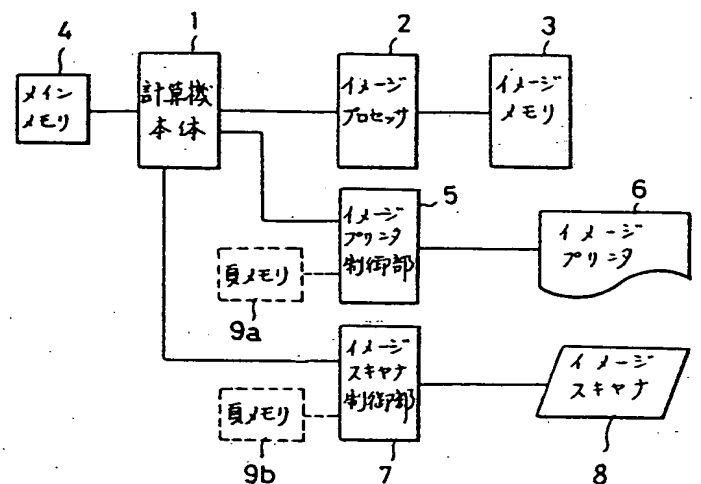
第1図



第2図



第3図



This Page Blank (uspto)